



# みやけの里

令和3年度  
三宅小学校 学校だより  
第10号 R4.2.21  
発行人 塚本嘉夫



友情の石のきれいな雪化粧

2月も下旬となりました。まだまだ寒い日が続いていますが、寒さの中でも子どもたちは元気に、また、落ち着いて学校生活を送っています。

先月は、新型コロナウイルスの影響を受け、臨時休業や学年閉鎖等の措置をとらざるを得ない状況もありましたが、感染防止対策を徹底しながら学校生活を進めているところです。

休み時間などは密にならないよう過ごし、業間時、昼休みは学年ごとに体育館使用を割り当てて遊んでいます。下校も集落ごとに時間をずらしています。制限のかかることが多いですが、みんなの健康を守るためということと継続していきます。保護者や地域の皆様にも様々な面でご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございます。引き続きお世話になりますが、ご協力よろしくお願いたします。



1年生 おにのお面をつくったぞー



にこにこ学級 音読にチャレンジ



2年生 そりすべりを楽しみました



3年生 体育 時間跳びに挑戦中



4年生 ハンドベルで ふるさと！



5年生 国語 抒情詩の学習



6年生 算数基礎テストに挑んでいます



分散下校の様子



昼休み 斜面でゆきあそび



昼休み 縄跳びを頑張っています



## リモートでの委員会活動、児童集会

感染症対策として異学年が同室で活動するのを控えています。そのため、委員会の話し合い活動をリモートで行っています。「できない」ことばかりに目を向けるのではなく「どのような形ならできるのか」に視点を置き、これまでの経験を活かしながらアイデアを出し合っています。経験したことのない状況下ですが「主体的な学び」の芽がさらにふくらみ、大きく成長しつつあるのを感じます。



タブレット越しにメンバーがつながり、委員会の活動について意見を交流させています。



児童集会では、各学年の生活目標発表を校内放送で行いました。発表の順番を待っている様子です。

## 認知症フレンドリーキッズ授業 1/21

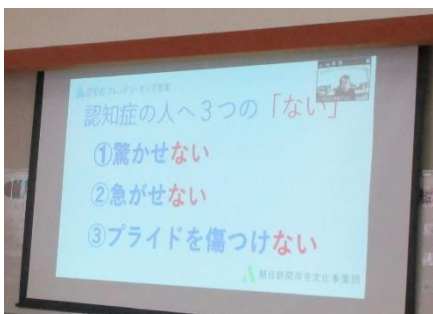


ハコスカという段ボールの箱でできた VRゴーグルにスマホを入れて、VR動画を見ています

大阪の朝日新聞厚生文化事業団の方とリモートで結んで、「認知症フレンドリーキッズ授業」を行いました。4～6年生の児童が認知症についての話を聞いたり、実際に認知症の方がどんなとき、どんな場面で困ったりするのか、意見を出し合ったりしました。また、VR体験を通して、認知症の方が階段を昇り降りするとき、道に迷ってしまったとき等の周りの見え方を疑似体験しました。

認知症の人は、どんな思いになるのか？ 自分たちは認知症の方にどんなことができるか？ 認知症の方が喜ぶお店やサービスとは何か？ 等、グループワークでお互いの考えを共有しながら認知症について学びを深めることができました。

認知症の人は、どんな思いになるのか？ 自分たちは認知症の方にどんなことができるか？ 認知症の方が喜ぶお



認知症の人への3つの「ない」は？



認知症の人が喜ぶお店やサービスは？



道に迷ってしまった…なんと声をかける？



勿忘草  
(ワスレナグサ)

“ワスレナグサ”について (朝日新聞厚生文化事業団 認知症フレンドリーキッズ授業冊子より)

青やむらさきの小さな花を咲かせるワスレナグサ。認知症のシンボルとして世界中で使われています。実はワスレナグサには名前の由来となっている言い伝えがあるのです。

伝説の舞台は中世のドイツ。ある若い騎士が、岸に青く美しく咲く花を摘んで恋人に送ろうと岸を降りていきました。しかし、花を摘んだとたんにも誤って川に落ちて投げ出されてしまったのです。騎士は最後の力をふりしぼって花を岸へ投げ、「ぼくを忘れないで」と叫びました。そして川の底に沈んでしまったのです。騎士の最後の言葉から、この花は「ワスレナグサ」と名付けられました。そして「私が認知症になっても忘れないで」という願いがこめられ、認知症のシンボルとなったのです。